

教育長 殿

宮城県泉高等学校学校
校長 青山 勝 印

令和元年度学校評価報告書(案)

1 本年度の重点目標

1 学習指導
① 基礎・基本の定着と、授業の質の向上(生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業やICTを活用した授業)による学力の向上を図る。
② 自学・自習の学習態度を養い、家庭学習習慣の確立と家庭学習内容の充実を図る。
2 生徒指導
① 基本的な生活習慣の確立と、他を思いやる心、協力奉仕の精神を育む教育を推進し、共生社会に生きる生徒の資質を高める。
② 規範意識の醸成に努め、事故や盗難等のない安全安心な学校づくりに努める。
③ 挨拶や端正な制服の着用、交通ルール遵守等、地域社会から評価される態度と整容を身に付けさせる。
④ 部活動、学校行事、生徒会活動等へ積極的に取り組ませる。
3 進路指導
① 面談等を通して生徒の自己理解を深めさせ、在り方生き方教育としての「志教育」を推進する。
② 生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の一層の推進に努めるとともに、進路に関する研修の機会を設ける。
③ 国公立大学や難関私大等に現役合格できる柔軟な頭脳と強い意志を養う。
4 保健衛生・安全教育・防災教育
① 生徒の心身の健康保持と体力増進を図る。
② 交通安全の意識高揚(特に自転車通学マナー)を図り、事故の未然防止に努める。

2

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 基礎・基本の定着	B	授業時数の確保や教科指導の工夫改善により、みやぎ学力状況調査において授業が分かる割合が、1年63.4%（昨年58.4%）、2年64.4%（昨年58.6%）となった。	A	B
	② 授業の質の向上	B	今年度は研究授業を11回、校内研修を6回実施し授業の質の向上に努めた。今後もこれらの取り組みを有効活用し、生徒の思考力、表現力を高める授業を目指す。	B	B
	③ 家庭学習習慣の確立	B	みやぎ学力状況調査において家庭学習時間平日2時間以上の割合が1年22.5%（昨年19.3%）、2年15.6%（昨年15.4%）となった。週間課題や個人面談等を通してさらに家庭学習時間の増加を促していきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・授業等の改善により着実に成果を上げている。これまでの方策を継続して授業の質の維持・向上を期待する。学習指導のさらなる向上には、学校設備等を技術革新に沿う形で体系的に更新する必要がある。予算措置の充実を要望する。 ・研究授業や校内研究を積極的に行っていることもあり、「授業が分かる」とする割合が1・2年生ともに増加しており評価できる。1・2年生ともに家庭学習時間は伸びているが、原因を踏まえ進路指導の在り方を検討する必要がある。 ・自己評価結果を「A」としてもよいのではないかと。 ・①、③は改善の結果が数字に表れている。継続して頑張ってもらいたい。 			
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	B	生徒へのアンケートにおいて、94%が遅刻をしないように心がけ、校内で挨拶をすることをしている。また、クラスの1日あたり遅刻者数の平均（1月末までの10ヶ月間のデータ）は0.7人であり、概ね落ち着いた学校生活となっている。今後も容儀や挨拶、時間の遵守等について、生徒の自覚が行動につながるよう継続的に指導するとともに、日頃の生活（生徒会活動やHR活動等）において生徒自身が自分を見つめ直す機会を作っていきたい。	B	A
	② 規範意識の醸成	B	概ね健全な規範意識を持つ生徒集団である。2018年6月より盗難被害への対策として、登校日における普通教室（不在時）の施錠及び教員の校舎内巡回を実施・継続している。盗難被害は、2018年度の当初3ヶ月間で8件に上ったが、その後は現時点（1月末）までに発生しておらず沈静化した。大きな未然防止効果が得られたとともに、生徒の防犯（物品管理）意識の向上につながったと考える。	B	A

	③ 特別活動への積極的な取組	B	学校評価において、生徒・保護者ともに85%以上が学校行事や生徒会活動、部活動が活発・有意義に行われていることに肯定的評価をしている。生徒や保護者、地域や時勢のニーズに応えながら、今後の方向性検討につなげていきたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に精力的に取り組んでおり生徒・保護者からの評価も高い。他方で、教員の負担が大きいのではないかという懸念もある。盗難対策に関して、生徒の防犯意識向上の方策では限界があると考え。県警の生活安全課や防犯対策を専門家等からアドバイスをもらい、低予算で実現可能な設備上の方策を検討してもよい。 ・普段の様子から、社会人として必要な立ち振る舞いや時間を守る姿勢等、基本的な生活習慣は身に付いている。民間企業が求める能力の第1位は、コミュニケーション能力である。是非、特別活動でコミュニケーション能力等を育てほしい。 ・盗難被害が沈静化したことは高く評価できる。楽観は禁物なので引き続き努力してほしい。 ・盗難被害が発生していないことは何よりである。盗まれない環境・意識を今後も継続してほしい。いじめの問題も、見えない・見えにくいところで行われるので、早めに発見してほしい。 ・校内巡回以外の防犯施策の実行をお願いしたい（例：看板やポスター等）。 ・防犯の意識付けは定期的に行うようお願いしたい。 				
進路指導	① 自己理解と志教育の推進	B	夢ナビライブ、社会人講話、総合の学習の時間などの活動で、自己理解と志教育を推進した。	A	B
	② 系統的・組織的な進路指導の推進と研修の設定	B	進路部と各学年の連携をはかり、年間を通じた指導によって、系統的・組織的な指導をした。	B	B
	③ 高い進路目標を達成できる柔軟な思考と強い意志の養成	B	担任との面談を通じて各生徒との進路ガイダンスを行い、進路達成への意志を育成した。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導も充実しており、生徒とのコミュニケーションもよく取れていることがうかがえる。現在の取組を継続してほしい。 ・本物に触れることや一流の人話を聞くことは志を高め、学習意欲を向上させることにつながると考える。外部講師を招聘するなど宮城県独自の「志教育」を充実させてほしい。 ・大学進学にとどまらず、将来にわたって「先のことまで考えた面接指導」を心がけてほしい。 ・学校の自己評価結果の①、②は妥当な評価であり、③は「A」でよい。 ・人生経験豊かで講話の上手な先生や大学受験に成功した先輩の講話も効果大である。 				
保健・安全・防災	① 健康保持と体力増進	B	保健だよりの発行、全校美化活動の実施、計画的な教育相談の実施とSCとのミーティングなど、心と体の健康増進に努めた。	A	B
	② 交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	B	生徒へのアンケート結果では交通ルールやマナーについて90%以上が遵守していると回答したものの、今年度の自転車が絡む交通事故は30件（1月末時点）となっており、交通安全に対する意識が事故の抑止に結びついていない状況である。事故の未然防止の観点から、集会やHR等の機会を捉え、登下校時の安全確保や不審者対応、周囲に配慮した行動等について度々触れることで、意識や対応能力の向上を継続的に図った。	B	B
	③ 防災教育と避難訓練の充実	B	防災マニュアルを改めた。今回、交通安全と生活安全については担当分掌に依頼した。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・安全・防災の分野でも学校をあげて様々な取り組みを行っている。しかし、交通事故の防止に関して、学校内での意識の向上という方策では限界があると考え。県警の交通課に支援を求めたり、周辺の車道や歩道の整備を要求するなどすれば、生徒がが事故に遭うリスクを減らすことができるのではないかと考える。 ・自転車での加害事故が増えている。正しい乗り方等について指導して事故防止に努めてほしい。自然災害等の状況が変化している中、防災マニュアルを毎年見直し改善することは重要と考える。 ・泉中央間の歩道で、3～4人が横に広がって歩き、他の通行人の妨げになっている場合がある。 ・自転車事故が依然として多い。何かしら対策を考える必要がある。登下校時の歩行マナーも例年近隣住民から不評をいただいている。 ・学校の自己評価結果は妥当と考える。 				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 防犯対策の強化	「見える警備・見せる警備」の一つとしての校内巡回を継続して行うとともに、たとえば看板やポスターによる注意喚起や防犯意識向上を促す対策を講じ、集会時や学年だより等をおして定期的に啓蒙活動を実施する。また、県警と連携しアドバイスをもらい、低予算で実現可能な設備上の方策を検討する。

② 進路指導の強化	各大学のオープンキャンパスや外部で行われる各種説明会への積極的な参加を促す。また、大学入学者選抜制度改革や新学習指導要領の実施に向けて教員が的確に情報収集を行うとともに生徒や保護者に適切に情報提供を行う。さらに、本物や一流と表される外部講師等を招聘したり、本物を実感させる機会の設定など志教育を充実させる。
③ 交通安全意識の高揚と事故発生 の未然防止	自転車運転マナーや交通安全に関して、正しい乗り方等について指導する交通安全教室の実施だけでなく集会時や学年だより等をとおして定期的に意識向上を図る。また、県警と連携して支援を求めたり、周辺の車道や歩道の整備について相談を行う。